

平田大一さんが子どもの教育について講演

西原町内の各小中学校PTAが展開する家庭教育学級の合同講演会が、2月11日に西原町中央公民館で開催されました。講演会では、南島詩人の平田大一氏を講師に招きました。

平田氏は、うるま市の子どもたちが演じる現代版組踊「肝高の阿麻和利」の演出を手掛けた仕掛け人の一人です。その経験をもとに、立ち上げの苦労や学んだことを話しました。「子どものやる気を引き伸ばすもの、子どものやる気を阻むもの。それはともに、親と学校」と語り、周りの大人が子どもたちと一緒に取り組んでいく重要性に触れました。またその一例として、三線や太鼓を織り交ぜた読み聞かせを披露しました。

さらに「大事なことは、地域みんなで子どもたちを育てるという考え方。大人と子どもが同じ場所において、同じ夢を見て、語る。大人だからできること、子どもだからできることを互いにきっちりやる。みんなが対等につながることで、新しいことができるんじゃないか」と、子育てや子どもの教育について語りました。

講演会に先立って、城間亮太くん（西原中1年）が、第64回沖縄県小中学校童話・お話・意見発表大会の中学生男子の部で優秀賞を受賞した作品を発表しました。



平田大一講演会

まちの話題

2014

映画にちなんだ絵本を、保育園などに寄贈

北海道剣淵町の「絵本の里」を舞台にした映画「じんじん」の上映会が、1月19日に西原町中央公民館で開催されました。

この上映会は、映画を通じて子どもたちや周りの大人などの成長を目指し、まちづくりにつなげようと西原町子ども会育成連絡協議会（比嘉良富会長）と西原町PTA連合会（仲里高雄会長）が組織するシネマAPが主催したものです。会場には子どもからお年寄りまで多くの方が観賞に訪れました。

また映画にちなんで、シネマAPから町内の保育園、児童館、学童など34か所に、映画のストーリーで登場する絵本が贈呈されました。この絵本は、シネマAPがこれまで実施した上映会の収益から予算をねん出して、購入したものです。



絵本を贈呈しました

110番を正しく利用しよう

110番の使い方についての理解を深め、適切な利用の促進を図ることを目的にした「110番の日イベント」（浦添警察署主催）が、1月10日にサンエー西原シティで開催されました。

浦添警察署は県内で3番目に110番通報の多い署です。しかし、通報の中には緊急性のないものや相談など、110番に適さない場合があり、正常な運用に支障をきたしています。そのためこの日のイベントでは、正しい110番の使い方や「急ぎでない場合は『#9100』へ」を訴えていました。

浦添警察署の平良英喜署長は「適切な利用が、犯人逮捕や事件の解決につながる。みなさんの110番通報に迅速に対応し、安心安全なまちに暮らせるよう尽力するので、ご協力お願いしたい」とあいさつしました。

イベントでは、空手家の豊見城あずささんが浦添警察署の1日署長に任命され、空手の国際大会などで活躍する喜友名諒さんが演武を披露しました。



MICE施設誘致の実現を目指し、イベントを開催！

西原町と与那原町が連携して、マリントウン地域に誘致を進めている大型MICE施設の誘致活動の活性化、実現を目指して「MICE施設よ来い！わきゃもん祭!!」（同実行委員会主催）が、1月19日に与那原町東浜の広場で開催されました。

このイベントは、「将来を担う若者たちが集結し、それぞれの特技を披露することで誘致をPRする」という位置付けで実施されました。両町の住民など多くの方が来場し、イベントを楽しみました。

ステージではアトラクションとして、伝統芸能やダンス、アーティストのライブなどが繰り広げられました。

小波津伝統芸能保存会は、小波津区に伝わる獅子舞や棒術を披露。兼久青年会はエイサーを舞い、見学した観客からは歓声と拍手が上がりました。



西原東中から沖縄県選抜メンバーに

西原東中男子バレーボール部の玉那覇優斗くん（3年）と宮城大雅くん（3年）が、JOCジュニアオリンピックカップ第27回全国都道府県対抗中学バレーボール大会に出場する沖縄県選抜チームに選出されました。

同大会に出場する県選抜チームには、西原中からも3人が選ばれています。西原の2中学校から5名が参加し、12月に大阪府で開催された同大会に出場しました。

また今大会の県外派遣について、西原町人財育成会（上間明会長）が派遣費用の一部を助成しました。



助成金の交付を受ける玉那覇くん（中央右）と宮城くん（中央左）

サポートセンターはばたきで、成人式を開催

通所作業施設として運営している（社福）西原町社会福祉協議会「サポートセンターはばたき」の主催する「平成25年サポートセンターはばたき成人式」が、1月17日に西原町社会福祉センターで開催されました。同センター利用者の大城彰哉さんが成人式を迎え、利用者や家族、関係者が大城さんの門出を祝いました。成人を迎えた大城さんは「今日はありがとうございます。これからは楽しく頑張っていきます」と抱負を述べました。

また、大城さんが得意とするマジックを披露して会場を盛り上げるなど、にぎやかな成人式が行われました。



鳩型の風船をみんなで打ち上げ、飛躍を誓いました（写真中央が大城さん）

中学校発！西原を花でいっぱいにして

生徒と地域とのコミュニケーションを図り、生徒たちの「豊かな心」の育成、地域の活性化を図ることを目的に、西原中学校（渡口政春校長）と西原東中学校（下地京子校長）の生徒たちが、育て上げた花を地域に贈りました。本事業は、（社）沖縄県対米請求権事業協会の助成事業を活用して実施。生徒たちが休み時間や部活動の合間を使って、心を込めて花を栽培し、PTAや地域ボランティアも協力して事業が実施されました。

西原中ではこの事業を「フラワータウンプロジェクト」と名付け、約40名の整備委員を中心に日々の管理など、約3か月の栽培管理に取り組みました。1月20日には同中学校で花の贈呈式を行いました。近隣の店舗や事業所、近隣の自治会などを招き、花が咲き揃った約300鉢のプランターを贈りました。整備委員長の又吉宗也くん（3年）は「土づくりから苗植えなど、心を込めて育てた。この花たちが西原中から西原町全体に広がって、花いっぱいのまちになったらうれしい」と、コメントしました。

また西原東中では「花いっぱい運動」として約4か月間、栽培委員を中心とした生徒たちが栽培管理にあたりました。1月22日には同中学校の校区内にある11行政区の自治会に対し、110鉢の花のプランターを贈呈しました。贈呈式では栽培委員長の崎原美咲さん（3年）が「いろんな地域に花があふれると、幸せな気持ちになると思う。もっとまちを花いっぱいになりたい」と抱負を語り、副委員長の金城秋華さん（3年）は「もっとまちに花が増えて、華やかになってほしい」とコメントしました。



西原中フラワープロジェクト



西原東中の花いっぱい運動